
現代
國語表記辭典

浮田章一 編
山田茂嘉

學藝書林

現代国語表記辞典

昭和43年10月1日 第1刷発行

¥ 580

編者 浮田章一
山田茂嘉

発行者 田寺正敬

発行所 株式会社 學藝書林

郵便番号 104

東京都中央区西八丁堀2-10

電話 (552) 5906～8

振替 東京 10821

印刷所 東洋印刷株式会社

落丁本・乱丁本はお取替いたします

和田製本工業

すいせんのことば

国語の正しい書きあらわし方に、ひとりでも多くの人が習熟することは、国語の混乱を防ぎ国語を純化する上で非常にたいせつなことであると思う。

この「現代国語表記辞典」は、長年国語教育にたずさわってきた、編集者の体験が裏づけになっている。懇切ていねいすぎるといつてもいいほどの細かい配慮が本辞典の特色であるといえるであろう。特に、文法の知識をじゅうぶんにもっていない人たちにも、語形の変化が理解されるようくふうしてある。したがって、この辞典を日常使用することによって、おのずから国語表記の問題点が正しくはあくできるようなと思う。また、現代口語文を書く上に必要にしてじゅうぶんな語数にあわせて、注意事項、資料と基準となるものを収録した付録は、学生・生徒はもちろんのこと父母・編集者・文書作成にあたる広範な人々の座右の書としての役割を果しうるものと信ずる。

各家庭に備えて便利な書としておすすめする。

昭和四十三年三月三十一日

この辞典の特色と使い方

一 特 色

この辞典は、現代の国語を書き表わす場合の基準となる「当用漢字表・現代かなづかい・送りがなのつけ方」による表記法に基づいて、日常だれにでもすぐ役だつように、豊富な用例と簡潔でしかも行き届いた注意書きを加えて編集したものである。

したがって、この辞典には、日々使用することにより、国語を正しく書き表わす力がおのずから身につくように細かい配慮とくふうがこらされている。

二 構 成

各ページを四段に分け、見開きごとに各段の説明をつけた。

第一段には、見出し語・当用漢字およびその音訓と、合わせて熟語・成句を五十音順に組み合わせて配列した。見出し語をゴシック体、その下に当用漢字、その下に

は音をカタカナで、訓をひらがなで示した。

この第一段は、漢字で示されていない熟語・成句を除けば、当用漢字表としての性格をもつものとなる。

そのほか、漢字補正資料にとりあげられている漢字を、(一)によって、当用漢字とは明確に区別ができるように示した。

音および訓のうち、傍線の付してあるものは特殊音訓である。

第二段は、当用漢字表・同音訓表を適用して、表記した語の用例をできるだけ豊富に収録した。したがって、第二段の用語例を活用すれば正しい書き表わし方ができる。

第三段は、(1)当用漢字表に収録されていない文字。

(2)当用漢字音訓表では認められていない音訓のもの。

(3)なるべくかな書きが望ましい語等の用例を、かな書きにする例として示しておいた。

第四段は、二段・三段の語についての注意事項ならびに誤用の例、表外音訓、語の言いかえ・書きかえの具体例をできるだけあげて、表記の諸法則が具体的に理解できるようにしてある。

したがって、この辞典を使用する場合には、各段それぞれの目的に応じた使い方をすると同時に、この四つの

段の有機的な構成をも生かして学習に、文書作成に活用するようにしていただきたい。

なお、付録には表記の上での資料となるもの、基準となるもの等を収録し、さらに詳しく学習する際に役だつものを収録した。

主要国語・国字問題訓令・告示表

当用漢字表	内閣訓令第七号	内閣総理大臣	(昭和二一、一一、一六)
	内閣告示第三号	吉田茂	
現代かなづかい	内閣訓令第八号	内閣総理大臣	(昭和二一、一一、一六)
	内閣告示第三三三号	吉田茂	
当用漢字別表	内閣訓令第一号	内閣総理大臣	(昭和二三、一一、一六)
	内閣告示第一号	片山哲	
当用漢字音訓表	内閣訓令第二号	内閣総理大臣	(昭和二三、一一、一六)
	内閣告示第二号	片山哲	
当用漢字字体表	内閣訓令第一号	内閣総理大臣	(昭和二四、四、二八)
	内閣告示第一号	吉田茂	
人名漢字別表	内閣訓令第一号	内閣総理大臣	(昭和二六、五、二五)
	内閣告示第一号	吉田茂	
ローマ字のつづり方	内閣訓令第一号	内閣総理大臣	(昭和二九、一一、九)
	内閣告示第一号	吉田茂	
送りがなのつけ方	内閣訓令第一号	内閣総理大臣	(昭和三四、七、一一)
	内閣告示第一号	岸信介	

もくじ

本文	付録
1 当用漢字新旧字体対照表	645
2 当用漢字補正のための資料	648
3 人名用漢字	648
4 現代かなづかいの要領	649
5 現代かなづかいの細則	653
6 送りがなのつけ方	669
7 言いかえ・書きかえの方法	674
8 原則としてかな書きにするもの	675
9 外来語の書き方	678
10 これからの敬語	680
11 教育漢字の筆順	703

○小学校学習指導要領等改訂に伴う取扱について(漢字)



見出し 漢字

音(カガ)訓(ひら)以下は送りかな

ア 亜 ア

アイ 愛 アイ

哀 アイ

あわーれ

あい 相 あい
ソウ・シヨウあいあい
あいぎ
あいくち

使い方の例

(一)は注意事項参照

あ

亜熱帯。亜寒帯。亜流。亜欧。亜州。亜聖。亜炭。亜硫酸。亜目。愛する。愛らしい。愛情。愛国。愛犬。愛用。愛唱。愛欲。愛惜。哀愁。哀悼。哀惜。哀歎。哀願。哀切。哀史。哀調。哀樂。哀訴。相成る。相對する。相手。相性。相方。相客。相乗り。相身互い。相持ち。相役。相宿。相嫁。相打ち。(相変わらず。相撲)。和気あいあいとする。合い着を注文する。あいくちを突きさす。

かな書きにする例

アメリカ(亜米利加) アジア(亜細亜) 圃あま(亜麻) あいそ(愛相)。かわ(可愛)いい。め(愛)でる。まな(愛)娘 かな(哀)しむ。あわ(哀)れ…する あいおい(相生)。あいづち(相槌)。あいつ(相繼)いで。あいま(相俟)つて。あい(相)こ。あいま(相間)

注意事項

書きかえ・言いかえ▲誤用△表外漢字●表外音訓

(亜)Ⅱ…に次ぐの意 外国名・地名などは、おもにかたかな書き。植物名はかな書き。(愛惜)Ⅱ惜しむ意 (愛玩)↓愛用。愛がん。(愛撫)↓かわいがる。(愛敬)↓あいきよう (哀惜)Ⅱかなしむ意 (哀・衷)と似ているので注意。おもに名詞として使う。(あわれ)参照。時間を表わす(あいま)はかな書き。(相撲)は慣用として使われるが、かな書きがよい。(相変わらず)はかな書きがよい。(相図)↓合い図(あう)参照。(誦々)(問着)↓合い着(合い服)(七首)↓短刀(合い口)は別意。

あいだ 間 あいだ

カン・ケン
ま間する。間食い。間柄。
親しい間。物と物との
間。そのあいだ(間)。この
あいだ(間)。山あい
(間)。谷あい(間)。あ
いのこ(間の子)

あいて

相手にする。

あいにく

あいにくの雨だ。

あいにく(生憎・合憎)

あいまい

あいまいな態度。

あいまい(曖昧)

あいろ

あい路にさしかかる。

あい(隘)路

あう

合

あーう

合い。合う。物を合わ

つきあい(付き合)。あ

ゴウ(ガッ)
あーわすす。合(い)着。合(い)
図。合(い)服。合(い)
方。合(い)印。合(い)
符。合(い)札。いのこ(合の子)。あい
ま(合間)。あいのて(合
の手)。かっぱ(合羽)会い。会う。人を会わ
す。会い見る。出会い。
出会いがしら。会いた
い。会わせる顔がない。あお(青)ぶくれ。あお
(青)息。あお(青)二才。
あお(青)侍。あおあら
し(青嵐)

会

あーう

カイ・エ
あーわす会い。会う。人を会わ
す。会い見る。出会い。
出会いがしら。会いた
い。会わせる顔がない。あお(青)ぶくれ。あお
(青)息。あお(青)二才。
あお(青)侍。あおあら
し(青嵐)

あお

青

あお(さお)

あおい

あおーい

セイ・シヨウ
ウ青み。青む。青さ。青
ませる。青白い。青空。
青写真。青物。青田。
(真っ青)。あお(青)ぶくれ。あお
(青)息。あお(青)二才。
あお(青)侍。あおあら
し(青嵐)

(真っ青)。

し(青嵐)

時間を表わす「このあいだ。そのあ

いだ」などはかな書き。(間・服)↓合
い服。(間・着)↓合い着。(間の手)↓
合の手(かな書きがよい)

(対手)は使わない。(合手)

(生憎・合憎)はかな書き。

(曖昧)↓不確実。あいまい

(隘路)↓難関。障害。困難。支障

(逢)は「あう」とは使わない。

(合う)↓ぴったりとする意
(会う・相)と混同しないこと。複合名詞の(い)は省略してもよい。
(合棒)↓相棒。(合性)↓相性
(会う)↓出くわす意 (合う)と混
同しないこと。「さお」は表外音(慣用)。
実際に色として見えない場合は、
かな書きがよい。動植物名は例を
あげていないがかな書き。



見出し 漢字

音(読み)調(てい)
以下は送りかな

あおぐ 仰

あおーぐ

ギヨウ・コウ
おおーせ

あか 赤

あか(か)

あかーい
セキ・シヤク

あかす 明

あかつき

ギヨウ

あかつき 暁

あからさま

あかり 明

あがる 揚

上

あかるい 明

あかーるい

メイ・ミヨウ
あーかす
あーかり

使い方の例

(一)は注意
事項参照

仰ぎ。仰ぐ。仰げる。

仰がれる。仰ぎ見る。

ふり仰ぐ。

赤み。赤さ。赤い。赤ら

む。赤茶ける。赤ら顔。

赤色。赤信号。赤紙。

赤チンキ。(真ッ赤)。

↓(あかるい)参照。

暁方。暁色。暁やみ。

(暁雲)。

あからさまに非難。

↓(あかるい)参照。

揚がる。揚げる。揚げ

油。揚げ物。油揚げ。

上がり。上がる。でき

上がり。仕上がり。値

上る。上る。上る

明る。明る。明る

い。明かり。明からむ。

明かす。身の明かし。

かな書きにする例

ぎようさん(仰山)。ぎ

ようてん(仰天)。ぎよ

うぎよう(仰々)しい

あか(赤)子。あか(赤)

ちゃん。あかんぼう(赤

ん坊)。まっか(真ッ赤)

なうそ

さと(暁)る

あからさま(明白地)に

あげく(揚句・挙句)の

果て。あげ(揚)足

じようず(上手)

あす・あした(明日)。

あさって(明後日)。

ミヨウバン(明礬)

注意事項

書きかえ・音いかえ▲誤
用へ表外漢字●表外音調

「あうぐ」と読まないこと。(毒をあ

おぐ)などはかな書き。

「か」は表外音(慣用)。

実際に色として見えない場合はか

な書き。

動詞には使わない。

(暁雲)は音読みでも使う。

副詞はかな書き。

(油揚げ)を「あぶらげ」と読まない

こと。

(膳・騰・挙)は「あげる・あがる」と

は使わない。

(明日・明後日)は音読みで使って

よい。(燈)の意味の「あかり」はか

な書き。

にぎ—る

握の砂。

あ(飽)くまでも…

あ(悪)しからず。いじ
わる(意地悪)。おかん
(悪寒)。よしあし(善し
悪し)。つわり(悪阻)。
あく(悪)どい。あく(悪)
たれる
はあく(把握)

(商内) ↓ 商い

複合名詞は(き)を省略してもよい。
副詞はかな書き。

「お」とは読まない。(善惡)は「ゼン
 アク」と読み「よしあし」とは使わ
 ない。(惡業)→惡行。(惡業)は仏教
 語。(惡罵)→惡口。ののしる。
 (惡寒)→寒け。(惡辣)→惡質。あ
 ぐどい

(把握) ↓ つかむ

見出し 漢字 音(カタ)訓(ヨミ) 以下は送りかな	使用方の例 (一)は注意 事項参照	かな書きにする例	注意事項 書きかえ・言いかえ▲誤 用△表外漢字●表外音訓
あく 飽	↓(あきる)参照。	あ(明)くる朝	連体詞はかな書き。
あくるー	あくる朝。あくる日。	あ(明)ける朝	(挙げ)は使わない。
あげあし	あげ足をとる。	あ(揚・上・挙)げ足	(揚げ板)は使わない。
あげいた	上げ板。	あ(明)けつばな(放)し。	動詞・連体詞とも漢字でよい。
あけて	明けて十年め(目)。	あ(明)けつぱろ(広)げ。	(挙)は「あげ」とは使わない。
あげて	国をあげて祝う。	あ(明)けすけー(あか るい)参照	(開)は「あける」とは使わない。
あける	明	あ(明)けすけー(あか るい)参照	(明け渡し)は(け)を省略してもよ い。
あーける	メイ・ミヨウ	じょうず(上手)	(騰)げる。騰(る)。(挙)げる。↑上 げる
あーかす	あーかり		
あーかり	あきーらい		
あきーらか	上げ。上げる。上げ潮。		
あーげる	上げ板。申し上げる。		
ジョウ・あーがる	持ち上げる。むね上げ		
うえ(うわ)	式。↓(あがる)参照。		
かみ・のぼーる	揚げ。揚げる。揚げ油。		
あーげる	荷揚げ。油揚げ。水揚		
ヨウ	げ高。		
あーがる	朝寝。朝焼け。朝立ち。		
あさ	朝晩。朝霧。朝夕。		
朝			
あさ			
千ヨウ			

あざ	字	あざ マ	麻	あざ
あさい	浅	あさーい セン		
あざむく	欺	あざむーく ギ		
あざやか				
あし	足	あし ソク たーす たーりる たーる		
あじ	味	あじ ミ		
あずかる	預	あずーかる あずーける ヨ		
あずける				

麻。麻糸。麻織(り)物。
大麻。
大字。小字。字名。
浅み。浅さ。浅い。浅黒い。浅瀬。春浅い。欺き。欺く。欺かれる。昼を欺く明るさ。
あざやかな手なみ。
足並み。足止め。足踏み。足がかり。足かけ。足どり。足早に。足固め。(足元)。雨足。
味み。味する。味付け。味気ない。味わい。味塩。味がうすい。塩味。(辛味)。味を味わう。預かり。預かる。預ける。預(か)り金。預(か)り証。一時預(か)り。預け金。預け品。

マージャン(麻雀)
圍ごま(胡麻)
もじ・もんじ(字)
あさはか(浅墓)
あさり(浅蜷)
だま(欺)す。いつわ(欺)り
あざや(鮮)か
たび(足袋)。あしだ(足駄)
あむかで(百足)
みそ(味噌)。みりん(味醂)。まず(不味)い。まず(不味)い事になる。
あじ(味)わい深い作品
おあず(預)けを犬にさせる

植物名はかな書きが原則。

単独では「もじ・もんじ」とは使わない。

動物名はかな書き。

「いつわり」は(偽り)を使つてよい。

「鮮」は「あざやか」とは使わない。

「脚」は「あし」とは使わない。動物名はかな書き。(足下・足許)↓足元(できるだけ「足もと」と書く)。(足速)や↓足早や

(辛味)を「からミ」と読まないこと。「からミ」は↓(辛み)と書く。(味)のつくりを(末)と書くは誤り。

複合名詞は(か)を省略してよいが(け)は省略しないこと。(貯)と混同しないこと。(貯金)(預金)は意味がちがうことに注意。(ヨ・チ

ヨ)参照。

見出し 漢字	音 (カタ) 訓 (ひら) 以下は送りかな	使い方の例 (一) は注意事項参照	注意事項 書きかえ・言いかえ ▲誤用 △表外漢字 ●表外音訓
あせ 汗	あせ カン	汗する。汗ばむ。汗水。汗知らず。冷や汗。	(汗みずく)を(汗水く)と書かないこと。
あせる	あそーび	あせりのいろを見せる。	(焦る)↓焦燥。あせる
あそび 遊	あそーび ユウ	遊び。遊ぶ。遊べる。遊ぶす。遊びする。川遊び。女遊び。砂遊び。	「ユ」とは読まない。(ゆるみ・すきま)の意に使う場合はかな書き。
あたい 価	あたい カ	価。価する。物の価。人の価。	::にあたい(価)する
値	あたい チ・ね	値。値する。bの値。売り物の値。	::にあたい(値)する
あだうち	あだーえ	あだ討ちを果たす。	あだ(仇)
あたえる 与	ヨ	与え。与える。与え物。受け与え。	悪事にくみ(与)する。おほめにあず(与)かる
あたたかい暖あたたーかい	ダン	暖かさ。暖かみ。暖かい。暖まる。暖める。	ふところがあたた(暖)かい。のれん(暖簾)
あたま 頭	あたま ズ・トウ	頭数。頭割り。頭打ち。(頭金)。	かみ(頭)の毛。かしら(頭)
あたらしい新あたらしい	シン・あらーた	新しさ。新しい。物新しい。新たに...	にい(新)妻。にい(新)姿
あたらしい新あたらしい	シン・あらーた	新しさ。新しい。物新しい。新たに...	「あらた」と読ませる場合の送りがなに注意。

あたる 当 あーたる

トウ
あーてる

アツ 圧 アツ

あつあつ

あつい 厚 あつーい
コウ

暑 あつーい

シヨ

熱 あつーい

ネツ

あつい

あつかい 扱 あつかーい

あつかう 扱 あつかーう

当(た)り。当たる。当てる。当て込む。行き当(た)り。当(た)り番号。食当(た)り。当(た)った。(当て名)。

あたりまえ(当り前)。あ(当)たりさわ(障)り。あ(当)てこすり。あ(当)てにする

圧する。圧縮。圧力。

おさ(圧)える

圧迫。圧倒。圧死。気

おさ(圧)える

圧。水圧。抑圧。弾圧。

おさ(圧)える

あつあつの恋人たち。

あつあつ(熱々)の…

厚さ。厚み。厚い。厚

あつかま(厚顔)しい

ばつたい。厚手の。厚

あつかま(厚顔)しい

紙。厚化粧。

あつけ(暑気)

暑さ。暑い。暑がる。

あつけ(暑気)

むし暑い。暑い日。

あつあつ(熱々)の…

熱さ。熱い。熱がる。

あつあつ(熱々)の…

湯が熱い。熱い太陽。

あつ(篤)い

志のあつい人。

あつ(篤)い

扱い。扱う。扱いにく

しご(扱)く。こ(扱)き

い。扱い難い。扱われ

おろす。稲こ(扱)き

る。取り扱う。取(り)

おろす。稲こ(扱)き

名詞・複合名詞に使う場合は(た)を省略してよい。
(行き当たりばつたり。食当たり)はできるだけ書き。
(宛名)は(当て名)と書いてもよい
ができるだけかな書き。
「おす」とは読まない。(庄)は別字、混同しないこと。「おさえる」は(押える)を使つてよい。
副詞はかな書き。
(厚かましい)と書いてもよいがで
きるだけかな書きのこと。
Ⅱ気候などのあついに使う(暑
気)は「シヨキ」と使つてもよい。
Ⅱ火・湯・熱などのあついに使う
(篤)は「あつ」とは使わない。
「こく」とは読まない。複合名詞の
(取り扱い)は誤読のおそれのない
場合に限り(り)を省略してよい。

見出し 漢字

音(カキ)訓(ヒラ)
—以下は送りかな

使用方の例

(一)は注意
事項参照

かな書きにする例

注意事項 ↓書きかえ・言いかえ ▲誤
用 △表外漢字 ●表外音訓

あつかましい

あつけない

あつせん

あつち

あつぱれ

あつまる 集

あつめる

あつ—まる
あつ—める
シユウ

あつれき

あてずっぱ(う)

あてな

あてやか

あてやか

あてる 充

あ—てる
ジユウ

あと

跡 当

あと

セキ

(厚)かましい顔。

あつけない幕切れ。

就職のあつせん。

あつちに行きなさい。

あつぱれな功績。

集(ま)り。集まる。集

め。集める。寄せ集め。

かき集める。

両国間のあつれき。

あてずっぱうを言う。

(当て名)を書く。

あてやかな姿。

あてやかな様子。

充てる。人を充てる。

教育費に充てる。不足

分を充て補う。

↓(あたる)参照。

跡目。跡継ぎ。(跡かた

づけ)。足跡。くつ跡。

住居跡。

あつかま(厚顔)しい

あつけ(呆気)ない

あつせん(幹旋)

あつち(彼方)

あつぱれ(天晴・適)

つど(集)い

あつれき(軋轢)

あ(当)てずっぱ

あ(当・宛)て名

あて(貴)やか

あて(艶)やか

あで(充)ちる。み(充)た

す

あと(跡)かた。あとか

たづ(跡片付)け

あ(後)は「あと」とは使わない。(あと

かたづけ)はできるだけかな書き。

(後)は「あと」とは使わない。(あと

かたづけ)はできるだけかな書き。

あ(後)は「あと」とは使わない。(あと

あとあし

あとあじ

あとおし

あとがま

あとさき

あとしまつ

あとつぎ

あとめ

あともどり

あな

穴

あな

ケツ

あなた

あなどり

あなどる

侮

あなどり
あなどーり
あなどーる

あに

兄

あに

ケイ・キョウ

あとで足で砂をかける。

あと味が悪い。

あと押しをする。

あとがまにすわる。

あとさきに注意。

あと始末をする。

家の跡継ぎ。社長の跡

継ぎ。

跡目相続。

車があともど(戻)りす

る。

穴あけ。穴埋め。穴蔵。

抜け穴。風穴。落(と)

し穴。

あなたとわたしの仲。

あなたの方向に見える。

侮り。侮る。侮られる。

侮らす。

兄上。兄嫁。兄様。兄

でし。兄弟。

あと(後)足

あと(後)味

あと(後)押し

あとがま(後釜)

あとさき(後先)

あとしまつ(後始末)

あと(後)もどり

あなかしこ(穴賢・穴畏)

あなご(穴子)。あな

ぐま(穴熊)

あなた(貴方・貴女)

あなた(彼方)

(後)は「あと」とは使わない。かな

書き。(跡足)とも書かない。

(後)味↓

(後)押し↓

(後)釜↓

(後)先↓

(後)始末はできるだけかな書き。

(後)継ぎは使わない ↓(後)任。

跡目)と言いかえる。

(後)目は使わない↓

(戻)は補正案で加えられる文字。

(孔)を「あな」とは使わない。

競輪や会計上の(あな)はできるだけ

けかな書き。動物名はかな書き。

いずれも音読みは使つてよい。

(彼方)代名詞。かな書き。

(兄弟)は音読みで使うのがよい。

(兄貴)の(貴)はかな書き。単に↓

(兄)がよい。「え」とは読まない。

見出し 漢字	音(カタ)調(セウ) ー以下は送りかな	使用方の例 (ー)は注意事項参照	注意事項 ↓書きかえ・言いかえ ▲誤用 △表外漢字 ●表外音調
あね 姉	あね シ	姉。姉上。姉様。姉妹。姉ご(御)。(姉女房)。(姉婿)。	(御・女房)はできるだけかな書き。(姉妹)は音読みで使うのが望ましい。
あびる 浴	あーびる ヨク	浴び。浴びる。浴びせる。水浴び。砂浴び。あぶない場所。あぶなくころぶところ。油する。油差し。油揚げ。油絵。油紙。髪油。あへんは麻薬。あほうな人間。あほらしい話。尼寺。尼姿。尼さん。	(日光や非難をあびる)はかな書きが望ましい。(危い)→危険(危)は「あやうい」と使つてよい。(脂)は「あぶら」とは使わない。動物名はかな書き。
あぶない	あぶなくー	あぶなくころぶところ。油する。油差し。油揚げ。油絵。油紙。髪油。あへんは麻薬。あほうな人間。あほらしい話。尼寺。尼姿。尼さん。	(阿呆)→白痴 ↓両字とも当用漢字ではない。仏門・キリスト教などの(修行女・修道女)を言う。
あぶら 油	あぶら ユ	あぶら(油・脂)汗。あへん(阿片)。	あまのじやく(天邪鬼)。てんびん(天棒・天秤)。
あへん	あへん	あへん(阿片)。	(天降り)とは書かないこと。
あほう	あほう	あほう(阿呆)。	「あま」は表外音(慣用)。
あほらしい	あほらしい	あほ(阿呆)らしい。	動物名はかな書き。
あま 尼	あま ニ	あま(阿呆)らしい。	
雨	天 (あま)あめ テン	天の川。天つ神。天下り。(天下り人事)。 ↓(あめ)参照。 雨あし。雨具。雨雲。 雨戸。雨水。雨宿り。 雨だれ。	